



○ まもなく

ものごとの受け止め方というものは、人によって違うということがよくあると思います。調理をするときに「塩を少々加えます。」というような表現がありますが、「少々」とはどのくらいなのでしょう？「小さじ一杯分」というような表現であれば正確な量が誰にでも伝わりますが、「少々」という表現もよく遣われますね。味加減というのは人の好みも違いますから、よほどの差でなければ許容範囲なのでしょう。しかし長年培ってきた技による伝統の味というようなものは変えるわけにはいかないとはいいますので、そのような場合伝え方には注意が必要でしょう。

受け止め方の違いについて考え出したのは JR のアナウンスからです。到着を待っているときや目的地に着く前くらいに「まもなく」ということばがよく遣われます。新幹線の待合室で聞くときの「まもなく到着します。」は5分くらい前です。在来線に乗っているときの「まもなく〇〇駅に到着します。」は50秒くらい前です。電車には時刻表というものがありますから、このような違いは問題にはなりません。でも時計がなかったら困るでしょうね。取るに足らないことかもしれませんが、考え出すと不思議なことだなと思ってしまいます。「生まれて間もない赤ちゃん」という表現では、数分の場合もあれば数日の場合もありそうです。

私たちが通常何も気にせず遣っていることばでも、あらためて内容を検討してみて「どういうこと？」というものはたくさんありそうです。次に取り上げることばは「きちんと」です。「きちんと片付けなさい。」や「服装をきちんとしなさい。」などとよく遣われますね。昔、特別支援の学校で見かけたことです。先生が生徒に「きちんとしなさい。」と言ったとき、その生徒は「キチン！」と声を出して行動したそうです。その生徒の受け止めも正解ですね。

ことばについてこだわって内容を検討し始めると、正解がたくさんあり過ぎてキリがなくなってしまうと思います。日本語は美しいと私は思いますが、このような点は難解でもあります。英語などではもっと客観的で分かりやすい表現が遣われるように思います。日本語を流ちょうに話される外国出身の人を見ると、いつもすごいなと思います。

話は変わって余談です。再びアナウンスです。私は今毎日同じ時間に同じ電車に乗っています。流れてくるアナウンスの音声や内容はほぼ皆いつも同じです。あらかじめ録音されたものを流しているんだなと思っていましたが、先日不思議なものを聞きました。その日は雪のため遅れが出ている列車もありました。自分の乗ろうとしている列車もそうでした。いつもと同じアナウンスが流れてきましたが、その後同じ声で遅れの情報を伝え始めました。今まで聞いていたのは録音ではなかったのかと驚きました。いや後に付け加えただけなのかもしれません。もっと驚いたのはその後の英語版です。いつもと同じ内容の後に英語で遅れを伝え始めました。ネイティブの人が居るの？それとも上手な日本人？などと妄想が膨らみます。カーナビではいろいろな単語を組み合わせる案内文を読み上げてくれますが、このアナウンスも同じようなシステムなのでしょう。そうだと流ちょう過ぎる。

もう一つ違う余談です。新山口駅では独特なしゃべり方のアナウンスをする男性(?)がいらっしやいます。私はそれをたまに聞くことができますが、楽しい気持ちになります。在来線の車掌さんも人によって個性がさまざまです。JR はアナウンスのマニュアルをあまり統一していないのかな。もっともみんながいつも同じだと、毎日乗っていて飽きてしまうかもしれませんね。余談ばかりになってしまいました。



成田山

白鳥

サンセット

和なごみ